

産業連関表の作成作業の効率化等について

平成 27 年表は、経済センサス-活動調査の調査実施時期が繰り下げになる一方で、統計改革の関係で平成 32 年表が大きく見直されることになっているため、作業期間を従来以上に短縮する必要がある。特に接続表作業（平成 31 年度に推計作業）については平成 32 年表の作業と並行するため、作業の効率化等の観点から以下のとおりとしたい。

付帯表：

従来どおり作成（①物量表、②屑・副産物発生及び投入表、③雇用表、④雇用マトリックス、⑤固定資本マトリックス、⑥産業別商品産出表（V 表）、⑦自家輸送マトリックス）

接続表：

- ・ C T 表（名目表）は、産業連関作成府省庁で作成する。
- ・ マトリックスの統計表及びインフレーター作成の推計作業は、基本的に外部委託によるものとする。
- ・ 部門分類については、統合を基本として 3 年次分を合わせる（これまで最新年次に合わせていた。）。

なお、今後の経済センサス-活動調査の組替集計など推計作業が本格化し、作業の進捗は不確定部分もあることから、更なる作業の効率化について引き続き検討する。

基本要綱の記述内容

(2) 公表の早期化・作業の効率化

基本方針にあるとおり、経済センサス-活動調査の調査実施時期が繰り下げになる中で、前回表に比べ公表を早期化できるように、これまで速報及び確報の二段階で公表していたものを、速報の利活用が少ないことも勘案し、1 回での公表（従来の確報をベースにしたもの）とする。

接続表についても、部門設定時に各時点表の部門分割による作業を避けるなどの対応を行ったうえで、業務の外部委託も含め更なる効率化を検討する。